

# 第76回北海道高等学校柔道大会 兼 第75回全国高等学校柔道大会北海道予選会 開 催 要 項

主 催 北海道高等学校体育連盟 北海道教育委員会 一般社団法人北海道柔道連盟  
 主 管 北海道高等学校体育連盟柔道専門部 北海道高等学校体育連盟旭川支部  
 当 番 校 旭川志峯高等学校 〒079-8505 北海道旭川市永山7条16丁目3番16号  
 TEL0166-48-1221 FAX0166-48-0740

1 期 日 令和8年6月16日(火)～6月19日(金) 4日間

6月16日(火) <会議・公式練習>

開 場	9:00	
公 式 練 習	9:15～ 15:00	
専 門 委 員 会	11:30～ 12:20	第1会議室
団 体 オ ー ダ ー 提 出	12:30～ 12:45	多目的ルーム
監 督 ・ 主 将 会 議	13:00～ 14:30	多目的ルーム
審 判 会 議	15:10～ 16:20	多目的ルーム

6月17日(水) <団体試合 男子・女子>

開 場 ・ 受 付	9:00～	受付:正面玄関フロア
男 ・ 女 体 重 計 量	9:20～ 9:50	男子:多目的アリーナ 女子:控室1
開 会 式	10:10～ 10:25	多目的アリーナ ※全員整列
団 体 試 合 ( 女 子 )	10:35～ 12:35	多目的アリーナ
団 体 試 合 ( 男 子 )	13:25～ 17:00	多目的アリーナ
男 女 団 体 表 彰	17:10～ 17:20	多目的アリーナ

6月18日(木) <個人試合 女子～決勝 男子1,2回戦>

開 場	9:00～	
顧 問 ・ 審 判 打 ち 合 わ せ	9:50～ 10:10	多目的アリーナ
個 人 試 合 ( 女 子 )	10:20～ 12:40	多目的アリーナ
形 の 演 武	12:45～ 13:00	多目的アリーナ
個 人 試 合 ( 男 子 )	13:45～ 16:30	多目的アリーナ

6月19日(金) <個人試合 男子>

開 場	9:00～	
顧 問 ・ 審 判 打 ち 合 わ せ	9:45～ 9:55	多目的アリーナ
個 人 試 合 ( 男 子 )	10:00～ 15:15	多目的アリーナ
男 女 個 人 表 彰	15:20～ 15:40	多目的アリーナ
閉 会 式		多目的アリーナ

2 会 場 道北アークス大雪アリーナ 多目的アリーナ  
旭川市神楽4条7丁目

TEL0166-61-9952

### 3 競技規則

(1) 国際柔道連盟試合審判規定による。ならびに北海道高体連柔道専門部申し合わせ事項による。

(2) 「優勢勝ち」の判定基準

ア 団体試合は、「有効」または「僅差」(指導差2)以上とする。チームの内容が同等の場合は、代表選手を任意に選出して代表戦を行う。代表戦で得点差がない場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を行う。延長戦は「有効」以上の得点があった時点、または「指導」の数に差が出た時点で試合終了とする。

イ 個人試合は、「有効」または「僅差」(指導差2)以上とする。試合終了時に得点差がない場合は、ゴールデンスコア方式の延長戦を行う。延長戦は「有効」以上の得点があった時点、または「指導」の数に差が出た時点で試合終了とする。

(3) 試合時間

- ア 団体試合は、男女ともすべて4分間とする。代表戦の延長戦(ゴールデンスコア)は時間制限を設けない。
- イ 個人試合は、男女ともすべて4分間とする。但し、延長戦(ゴールデンスコア)は時間制限を設けない。

(4) 絞め技及び関節技においては、その効果が認められたときは、審判員の見込みによって「一本」の判定を下すことができる。

4 競技方法

(1) 団体試合

ア 男子は3校程度による予選リーグを行い、1・2位校による決勝トーナメントにより順位を決定する。

優勝、準優勝、3位(2校)とし、3・4位決定戦は行わない。

イ 女子はトーナメントにより順位を決定する。優勝校、準優勝、3位(2校)とし、3・4位戦は行わない。

ウ 試合の勝敗の決定は次による。

① 判定基準

選手対選手それぞれの試合の勝敗は「有効」または「僅差」以上とする。\*「僅差」は指導差2とする。

② 「技の内容」と「指導」の重み

\*【一本勝ち>反則勝ち>技あり>有効>僅差】の順とする。

③ 団体試合のチーム対チームの勝敗の決定(このことは、すべての試合に適用する)

以下の項目に従って勝敗を決定する。

I 勝ち数の多いチームを勝ちとする。

II Iで同等の場合は「一本」による勝ちが多いチームを勝ちとする。\*一本勝ちと反則勝ちは同等とする。

III IIで同等の場合は「技あり」による勝ちが多いチームを勝ちとする。

IV IIIで同等の場合は「有効」による勝ちが多いチームを勝ちとする。

V IVで同等の場合は代表戦を行う。\*代表戦はその対戦に出場した選手の中から任意に選出して行う。

VI 代表戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、勝敗を決する。

延長戦で「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。

VII 予選リーグにおいて、リーグ内のチームの勝率勝ち点が同一の場合は、直接対戦した勝敗や試合内容(一本・技あり・有効・僅差)を精査して順位を決定する。試合内容は試合時間内を優先する。さらに同内容の場合は抽選を行う。

\*代表戦の優勢勝ちの判定基準は「有効」または「僅差(指導差2)」以上とする。ただし勝敗が決しない場合は、延長戦(ゴールデンスコア)を時間無制限で行う。延長戦の判定基準、実施方法は個人試合に準ずる。

(2) 個人試合

ア トーナメント方式により順位を決定する。3・4位決定戦は行わない。

\*「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、勝敗を決する。

延長戦で、「指導」の累積により両者が同時に「反則負け」となった場合は、スコアをリセットして、再度ゴールデンスコア方式の延長戦を行い、必ず勝敗を決する。このことは、すべての試合に適用する。

イ 男子個人は各階級の参加者数により、個人試合1日目に1回戦のみの階級もあり得る。(1日目にベスト32を決定する)

ウ 個人試合の階級は下記のとおりとする。

〔男子〕100kg超級・100kg級・90kg級・81kg級・73kg級・66kg級・60kg級

〔女子〕78kg超級・78kg級・70kg級・63kg級・57kg級・52kg級・48kg級

オ 計量は時間内に実施し、パスしない者は出場を認めない。

5 引率・監督

(1) 引率責任者は当該校の教員で、監督は学校長の認めた教職員とする。ただし、監督については種目の特殊性を考慮し、申出により別途協議する。なお引率責任者と監督が同一者の場合は教員とする。校長から引率を委嘱された「部活動指導員」(学校教育法施行規則78条に示された者)も可とする。

(2) 監督の役割

監督は、自身の選手が大会会場に入場してから退出するまでの間、選手の行動に責任を持たなければならない。

(3) 監督の行為・言動

ア 試合が止まっている間(「待て」から「始め」)のみ、選手に対し指示を与えることができる。

イ 次の行為を禁止する。

① 試合が進行している最中に指示を出すことや試合中に立ち上がること。

② 対戦相手や自身の選手を侮辱する言動。

#### (4) 罰則規定

- ア 1回目は審判員が合議の上、口頭により「警告」を与える。
- イ 2回目は審判員が合議をし、大会委員長または審判長に報告の上、大会委員長または審判長の責任のもとに、その試合が終わるまで監督席から退場させる。
- ※ 次の試合(対戦校)からは、監督席に座ることはできるが、その後も改善されない場合は、大会期間中を通して、監督席への着席を認めない。

#### 6 参加資格

- (1) 北海道高等学校体育連盟に加入している高等学校の生徒で全道大会の参加資格を得た者。  
(北海道高等学校体育大会参加基準による。)
- (2) 令和8年度、北海道柔道連盟を経て(公財)全日本柔道連盟の登録を完了した者。
- (3) 高体連主催大会参加者災害補償制度に加入している者、または加入意思のある者。
- (4) 年齢は、平成19年4月2日以降に生まれたものとする。(令和8年4月2日現在で19歳未満の者。  
但し、出場は同一競技3回までとし、同一学年での出場は1回限りとする。)
- (5) 在籍が6カ月未満の転学者は参加できない。但し、一家転住等やむを得ない場合は高体連支部長の許可があればこの限りではない。尚、外国人留学生もこれに準じることとする。
- (6) 参加する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校長が支障ないと判断した者とする。
- (7) 女子においては、試合経験があり、ある程度の力量を有する者。
- (8) 脳しんとう対応として、選手およびその指導者は下記事項を遵守すること。
  - ア 大会1カ月以内に脳しんとうを受傷した者は、脳神経外科の診察を受け出場の許可を得ること。
  - イ 大会中、脳しんとうを受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。  
(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)
  - ウ 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
  - エ 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- (9) 高等専門学校・専修学校及び各種学校にあつては、学齢・修業年限ともに高等学校と一致していること。  
また、連携校の生徒による混成は認めない。大会開催に要する経費については応分の負担をすること。  
(応分の負担として、エントリー1名2,500円の参加料を納入する。)

#### 7 チーム編成

- (1) チーム編成においては、全日制課程・定時制課程・通信制課程の生徒による混成は認めない。
- (2) 団体試合
  - ア 男子は、監督1名・マネージャー1名・選手5名・補欠1名の合計8名をもって編成する。但し、選手は3名から5名でもよい。なお、3名もしくは4名の場合は、後ろ詰め(先鋒・次鋒、もしくは先鋒を空ける)とする。  
なお、試合開始後、負傷により3名・4名となった場合、対戦校が3名・4名の場合は、後ろに詰める。  
対戦校が5名の場合は空位とする。
  - イ 女子は、監督1名・マネージャー1名・選手3名・補欠1名の合計6名をもって編成する。但し、選手は2名でも良い。なお、選手2名の場合は、後ろ詰め(先鋒を空ける)とする。
- (3) 個人試合  
男・女ともに、監督1名・マネージャー1名・選手とする。出場選手は北海道高等学校体育大会参加基準による。

#### 8 組合せ方法

- (1) 組合せ抽選会 5月29日(金)9時より、旭川志峯高等学校 探求ルーム I において行う。  
組合せ決定後、当番校ホームページにて公開します。
- (2) 団体試合
  - ア 男子～予選はリーグ戦とし、同一支部が対戦しないようにする。(参加校の多い支部はこの限りではない)  
高校選手権北海道大会の上位4校の支部にシード権を与え、支部大会の結果でシード校を決定する。  
シード校は原則4校とするが、支部大会の結果により5校以上になることもある。  
決勝トーナメントは、シード校が入るリーグ1位校の位置はあらかじめ決定し、それ以外は抽選で決定する。
  - イ 女子～トーナメント方式とし、同一支部が早期に対戦しないようにする。シード校は支部大会の結果や過去の大会結果等から決定する。
- (3) 個人試合
  - ア 男女とも各階級トーナメント方式とする。
  - イ 男子は各階級、支部2位までをシードする。ただし、札幌支部は3位までとする。  
また、支部大会の出場人数が3名以下の場合は原則1位のみとする。(力量を確認し審議)  
なお、シード選手の組合せは高校選手権や過去の大会の成績により決定する。  
女子は各支部予選の順位や過去の大会成績によりシード選手を決定し組合せする。
  - ウ 一回戦は同一支部の選手が対戦しないようにする。ただし参加人数により組み合わせることもある。

## 9 参加申込

- (1) 方法 旭川志峯高等学校HPより全道高校柔道大会申込のページに入り「参加申込書」をダウンロードして、入力方法を確認し申込書を作成する。次のア、イの要領で送付する。
- ア 出場権があるものについて入力し、印刷後、公印を押印して、大会事務局へ郵送する。
- イ アで作成した申込データをメールに添付して大会事務局へ送付する。(ファイル名は学校名に変更)
- (2) 申込先〔郵送先〕079-8505 北海道旭川市永山7条16丁目3番16号 旭川志峯高等学校  
北海道高等学校柔道大会事務局 高原 聡  
〔メール送付先〕 s.takahara@shiho.ed.jp TEL 0166-48-1221 FAX 0166-48-0740
- (3) 申込締切 5月26日(火)必着。期日までに提出がない場合は出場を認めない。

## 10 参加料 選手1名(補欠も含む)につき2,500円を下記振込先へ締切期日までに振り込むこと。

- (1) 振込先 旭川信用金庫 永山支店 店番号 013 普通 口座番号0663580  
高体連当番校旭川志峯高等学校 校長 井上陽介
- (2) 締切 5月27日(水) ※ 振込依頼人名は北海道・高等学校を除いた学校名のみを記載して手続きをすること。  
例) ○ サッポロコトニ × ホッカイトウサッポロコトニウカッコウ  
※ 振込完了を確認できるもの(コピー可)を参加申込時に同封すること。

## 11 表彰等

- (1) 表彰 ア 団体 全道大会上位4校と敢闘賞(ベスト8)を表彰する。  
イ 個人 各階級上位4名を表彰する。
- (2) 全国大会出場資格 ア 団体 男女優勝校  
イ 個人 男女各階級優勝者

## 12 連絡事項

- (1) 団体試合のオーダー用紙提出と補欠選手起用届の提出
- ア 団体試合申し込みは、出場の可否を参加申込書にて期日までに当番校に提出する。
- イ オーダー用紙は監督主将会議前の指定された時間に団体戦出場チームの監督が立ち会いの下当番校担当者へ提出し、開封後直ちに掲示する。(提出後、担当者以外はオーダー用紙に触れることはできない)
- ウ 団体試合のオーダー用紙提出後は、配列や選手の変更は認めない。(競技開始後の補欠選手の起用は別)
- エ 男子団体試合において、3人もしくは4人でのエントリーを認める。(後ろ詰め)提出されたオーダーが後ろ詰めになっていない場合は、そのままの配列で後ろ詰めとする。  
\*試合開始後、負傷等で欠員が生じた場合は、その位置を空位とする。(後ろ詰めとしない)
- オ 女子団体試合において、2人でのエントリーを認める。(後ろ詰め)  
\*選手の配列について、負傷等で欠員が生じた場合、その位置は空位とする。ただし、両チームとも2名での対戦となり1名の対戦で勝敗を決する配列となった場合は、配列をそのままの順序で後ろに詰める(先鋒をあける)。また、2名同士の対戦後、勝ち上がった場合、次の試合の配列はエントリー通りの配列(欠員の場所を空位)とする。なお、試合開始後、負傷等で棄権し、出場選手が2名となる場合、棄権する選手は大会医師の診断を受けることを必要とする。
- カ 競技開始後に補欠選手起用の必要が生じた場合には、「補欠選手起用届」に必要事項を記入し、本部記録係に2部提出し、変更の承認を得ること。
- キ 提出されたオーダー用紙に不備があった場合は、出場を認めない。
- (2) 参加者は全員ゼッケンをつけること(男子は白地に黒、女子は白地に赤)。女子の試合者は上衣の下に、白色の半袖Tシャツを着用すること。
- (3) 参加する選手は赤白の帯を用意すること。
- (4) 引率者、選手の上靴、スリッパ等は各自で持参すること。
- (5) 形の演武を2日目に行う。
- (6) 観客席などの控え場所の荷物等は各学校で整理整頓すること。また、貴重品は必ず各学校で管理すること。
- (7) ゴミは各自で持ち帰ること。
- (8) 支部大会結果報告書・審判推薦書の提出について  
各支部専門委員は、「支部大会結果報告書」・「審判推薦書」を5月26日(火)までに専門部・大会事務局へメールにて送付すること。  
【専門部】 専門部所在地 〒063-0833 札幌市西区発寒13条11丁目3番1号  
北海道札幌琴似工業高等学校 堀川 徳彦 TEL 011-661-3251 FAX 011-661-3252  
【大会事務局】 北海道高等学校柔道大会事務局 高原 聡  
E-mail: s.takahara@shiho.ed.jp
- (9) その他不測の場合は、全専門委員で協議し専門部長が取り扱いについて判断する。